

令和 2 年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

美濃加茂市地域公共交通活性化協議会

平成 2 7 年 3 月 2 5 日設置

フィーダー系統 令和元年 5 月 2 7 日 確保維持計画策定等

直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<p>地域公共交通網の再編とその後の利用促進によって、全体として利用者数は目標を上回っていることを評価する。</p> <p>一方で、必ずしもネットワークの効率化にはつながっていないことが見受けられるため、特に八百津線や古井駅－可児川駅線については関係市町と協議の上、利便性・効率性双方の観点から確保・維持に努められるよう期待する。</p>	<ul style="list-style-type: none">・継続的なダイヤ改正や利用促進策（乗り方教室やバスに親しむ日実施、バスロケーションシステムやキャッシュレス決済導入等）実施により、地域公共交通の利便性及び効率性の向上に努めている。・東鉄バス八百津線は、令和元年度に運行事業者からの廃止協議を受け、存続について、県、関係市町、運行事業者により協議を実施し、この結果、八百津町の尽力により、減便は避けられないものの存続の方針が決定した。・古井駅－可児川駅線は、市内の各高校への通学または名古屋圏や可児市への移動等を支える重要な広域バス路線であるため、ダイヤ改正等により利便性を向上するなど維持に努めている。	<ul style="list-style-type: none">・利便性や効率性を検討しつつ、広域的な公共交通ネットワークの確保・維持に努める。

●地域の特性・背景

- ・美濃加茂市の人口は、約57,300人。
- ・東海環状自動車道他国道4路線が交差。中心市街地にはJR、長良川鉄道、民間路線バス等が乗入れる美濃太田駅があり、交通の要衝
- ・市民の移動手段は、自動車を中心。
- ・加速する少子高齢化社会に向け、市民生活を支える車以外の移動手段として公共交通の確保・充実が課題

●美濃加茂市地域公共交通網形成計画

- ・計画期間：H28年度～R1年度（H27年度作成）
- ・美濃加茂市の交通将来像：安全で便利に移動できる公共交通をみんなで育み、こちよく定住できるまち
- ・美濃加茂市における公共交通維持・活性化を目指す

◆基本方針 ①中心駅の交通拠点機能強化、②各種公共交通の連携強化、③利用者にやさしい環境創出、④持続可能な公共交通の維持推進

◆計画目標 ①中心駅のアクセス利便性向上、②公共交通相互の乗継利便性向上、③公共交通のわかりやすさ向上、④公共交通に対する関心向上

公共交通ネットワーク概要図



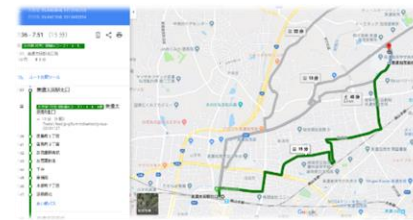
●公共交通の利用促進に関する事業（網形成計画抜粋）

- ・本市が目指す交通将来像の実現に向け、公共交通の利便性を高めるための環境整備と併せて、市民の理解を深め、公共交通を育くむため、利用促進や啓発などの事業を実施

- ①公共交通に関するわかりやすい情報を提供する事業
- ②公共交通の利用を誘導する事業
- ③バスへの愛着を高める事業



①バスに親しむ日



②GTFSデータの整備

●事業の実施状況（令和2年度）

・各種利用促進事業

①バスに親しむ日（無料乗車の日）の実施（R1.10、11月）

バスを身近に感じていただき利用していただくこと、市のイベントの開催に合わせ無料乗車の日を実施。3日間で593人が利用。

②GTFSデータの整備（R1.12月）

インターネットのグーグルマップ等であい愛バスの経路検索が可能。移動や乗り換え手段にあい愛バスも選択され、利用の可能性が増加。

③あい愛バス懇談会の開催（R2.2月）

お茶やお菓子を食べながら、気軽にあい愛バスについて市民の皆さんと語り合う場を設け、ニーズ等を把握する意見交換会を開催。参加者30人。

④乗車料金のスマートフォン決済サービスの導入（R2.2月）

急速に進む電子マネーの普及やインバウンドへの対応として、乗車料金のスマートフォン決済システム（PayPay）を導入。H30.12月にLINE Pay導入済み。

⑤動画検索サイトYouTubeにPR動画を公開（R2.5月～）

幅広い世代の皆さんに関心を高めてもらえるようバス停紹介や車窓からの風景などの動画を公開。現在30本ほどの動画を公開。



③あい愛バス懇談会



④スマートフォン決済サービス



⑤「YouTube」PR動画

※地域内フィーダー系統3路線を含む、全8路線の利用促進に寄与

※取組が認められ、R2.7月に国土交通大臣表彰を受賞

※令和3年1月 日開催、第3回美濃加茂市地域公共交通活性化協議会にて自己評価を実施

●地域公共交通網形成計画における評価

- 平成29年度の「あい愛バス」の再編運行に伴い、利便性が向上（各路線が中心駅と結節。各地区毎日運行、1日8便。）したことに加え、各種利用促進策の実施も効果となり、年間利用者数が大幅に増加。H26年度と比べ、R2年度は70,000人の増加。
- 皆さんのバスへの関心や愛着を高める各種取組（バスに親しむ日、あい愛バス懇談会、PR動画公開、出前講座など）や利便性を高める各種取組（バスロケーションシステム導入、GTFSデータ整備、スマートフォン決済導入など）が効果となり、利用促進につながったと考察。
- 今後も、継続的に各種利用促進策を検討、実施する方針。
- 広域ネットワークの役割を担う東鉄バス八百津線の存続について、県、関係市町、運行事業者との協議の結果、八百津町の尽力により今後も維持していく方針が決定。

目標			
美濃加茂市地域公共交通網形成計画全体の目標			
目標値			
公共交通全体の利用者数の増加			
成果指標（抜粋）			
【指標】公共交通の年間利用者数（人/年）			
	目標値[R1]	現況値[H26]	現況値[R2]
あい愛バス	3.0 万人以上	1.8 万人	8.8 万人

<参考> 市民アンケート（R1.10月実施）結果

※市内の3,000 世帯（3,000 人）を対象、有効回答数1,064票（回収率35.5%）

○「公共交通全体」の満足度（「満足・やや満足」の割合）

H27：11.4% ⇒ R1：18.0%（6.6%上昇）

○「あい愛バス」の満足度（「満足・やや満足」の割合）

H27：28.6% ⇒ R1：44.3%（15.7%上昇）

○「あい愛バス」の認知度

H27：87.6% ⇒ R1：97.6%（10.0%上昇）

満足度、認知度が
すべて上昇

●各路線の目標達成状況

目標値：年間利用者数（網形成計画で定める目標値に基づき設定）

区分	No.	路線名	目標値（人）			評価指標（人） 1便当たり	実績値（人）				評価 (A、B、C)	
			H30	R1	R2		R2	1日当たり	便数	1便当たり		
	①	まちなかぐるっと線	8,600	9,100	9,200	3	13,411	37.05	8	4.63	A	達成
	②	文化の森・公園線	2,700	2,900	3,000	3	3,566	9.85	6	1.64	B	未達成
○	③	あまちの森・しょうよう線	2,800	2,900	3,000	3	17,510	48.37	8	6.05	A	達成
	④	むくの木・そうきち線	1,100	1,200	1,300	3	13,038	36.02	8	4.50	A	達成
○	⑤	フルーツ線	4,000	4,200	4,400	3	11,410	31.52	8	3.94	A	達成
○	⑥	さとやま線	4,200	4,400	4,600	3	8,876	24.52	8	3.06	A	達成
	⑦	ほたる線	2,800	3,000	3,200	3	5,846	16.15	8	2.02	B	未達成
	⑧	古井駅-可児川駅線	2,400	2,400	2,500	3	14,793	40.86	9	4.54	A	達成
合計			28,600	30,100	31,200	-	88,450	30.54	-	3.80	-	

※区分 → ○：地域内フィーダー系統

※R1.10～R2.9（実績）、1日/1便当たり合計は平均値

●目標達成状況についての考察

- ・8路線のうち、6路線（路線①③④⑤⑥⑧）は、年間利用者が目標値を上回るとともに1便当たり利用者の評価指標を上回る。再編後の利用が定着するとともに、利用促進策（バスに親しむ日、出前講座、PR動画配信など）の実施により、新たに利用を高める効果もあったと考察。
- ・上記以外の2路線（路線②⑦）は、年間利用者は目標値を上回るが、1便当たり利用者の評価指標を下回った。路線②は、行先となる公園への移動が、いまだ車中心であることが要因と考察。⑦は、再編前の利用度が高かったことから目標設定を高くしているが、路線沿線の人口の少なさも影響するなど利用の伸びが少なかったと考察。
- ・地域内フィーダー系統3路線は、すべて目標を達成。利用の定着及び利用促進策の効果と考察。

●今後の方針

- ・継続的に各種利用促進策（バスに親しむ日、懇談会、愛着を高める企画など）を検討、実施。
- ・路線ごとの実情に合わせた目標値の見直し

●地域公共交通網形成計画における課題

- ・H29年度のあい愛バスの再編運行以降の定期的なダイヤ改正に加え、各種利用促進策の取組により、どの路線も年間利用者数の目標を上回る増加となっているが、1便当たりの利用者においては、一部の路線で評価指標を満たしていないため、これらの路線の利用がより高まる取組の検討・実施。
- ・あい愛バスと他の公共交通の連携を高め、公共交通全体の利用拡大を図るとともに、利用しやすい公共交通を整備し、いつまでも定住できるまちづくりの推進。
- ・広域的な移動を支える広域バス路線の継続的な確保・維持。

<対応策>

- ・公共交通の利用が少ない皆さんにバス等への関心を高めていただくよう、様々な機会（イベント、出前講座など）にて有効的なバスの活用手法（バス利用による健康づくり、コミュニティづくりなど多様な活用手法）を提案。
- ・公共交通の利用への理解が深まるよう継続して乗り方教室を開催。
- ・市民が公共交通に興味や関心をもち、親しみながら利用できる企画の実施。
- ・各種公共交通に配慮したダイヤを検討するなど、公共交通ネットワーク全体の連携を強化。

●地域内フィーダー系統路線における課題

- ・3路線すべてが、目標の年間利用者数及び評価指標の1便当たり利用者3人以上を達成。今後も現状を維持しつつ、更なる利用促進の推進。

<対応策>

- ・引き続き、各種利用促進策（バスに親しむ日、懇談会、愛着を高める企画など）や利便性向上に向けた定期的なダイヤ改正を実施。